



## 雜穀類

### 生産過剩と對策

農務局に招集された協議會

去日州農務長官ナガアロ・デア

ンドラーデ氏の發案で同局内に

雑穀生産過剰對策研究會が招集

され次の如く権要人士多數を網羅しての物々しい協議があつた

即ち

鹿市商業組合代表

カルロス・デ・ソーザ・ナザレ氏

アントニオ・ゴーベ・アオマ・イウ氏

アルフレド・ミエラ・ダス氏

鹿市商品取引所代表

ジョゼ・ガバルガ・ダ・シナス氏

鹿市中央商品取引所代表

マヌエル・コーナン・ニヨ氏

アントニオ・アルメイダ氏

フランセスコ・ラ・バツテ氏

小賣商組合代表

ジオルゴ・カバランテ・ダ・シナス氏

鹿市卸商組合代表

アンドニオ・ゴンサルベス氏

サントスマ商組合代表

ペドロ・シントラ・ダ・シレバ氏

サントスマ商組合代表

ヨシエスコ・ラ・バツテ氏

カルロス・ア・ブランテス氏

ジオルゴ・カバランテ・ダ・シナス氏

マヌエル・コーナン・ニヨ氏

アントニオ・セントラ・ダ・シレバ氏

サントスマ商組合代表

ペドロ・シントラ・ダ・シレバ氏

サントスマ商組合代表

ヨシエスコ・ラ・バツテ氏

サントスマ商組合代表

ペドロ・シントラ・ダ・シレバ氏

今年度收穫想高について委細の説明された

開會最初に農務長官は先づ各位の出席を謝りしついで農務局側の

集めた生産豫想高について委細の説明された

今年度收穫想高について委細の説明された

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

米

豆

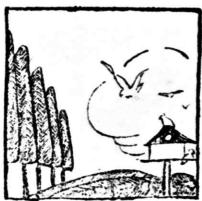
米

豆

米

豆





欄テスエロノ

邦人の實勢

邦人植民の實勢を調査せるリン

ス中央日本人會商業部の發表

する處に據れば、

所有土地總面積二萬一千四百四

十九城

家庭數二千五百十八家族

人口一萬三千八百四十九人

内蔵

土地所有者一千三家族

コロノ及貢者一千三百三十九家族

ヨンス市内在住者百十四家族

其他グリヤナ町セツナ町等二十

所有珈琲樹數一千八萬七千九

本年度珈琲收穫想高皮付

四十五萬六千八百四十俵

粗收穫想高十五萬九百十俵

所有自動車數二百四臺

實に右の如く發展の最高度を示

て是れが可能か否かは未定の問

題に屬してゐる云ふことであ

る。

岡田英定氏

アマゾン行

ス

黒人坊に殺さる

シツコ・イラリオ

リンス郡バルボーザ植民地の藤

永力廠方につて、植民兒童

神運動等を唱道し且つ實現に力

豫て内諸の上塙司氏、栗津金六

氏等經營のアマゾナス州バルボ

チニスに於ける拓殖學校主任と

して、来る廿八日サントス發の

ス

邦人

の實勢を調査せるリン

ス中央日本人會商業部の發表

する處に據れば、

所有土地總面積二萬一千四百四

十九城

家庭數二千五百十八家族

人口一萬三千八百四十九人

内蔵

土地所有者一千三家族

コロノ及貢者一千三百三十九家族

ヨンス市内在住者百十四家族

其他グリヤナ町セツナ町等二十

所有珈琲樹數一千八萬七千九

本年度珈琲收穫想高皮付

四十五萬六千八百四十俵

粗收穫想高十五萬九百十俵

所有自動車數二百四臺

實に右の如く發展の最高度を示

て是れが可能か否かは未定の問

題に屬してゐる云ふことであ

る。

岡田英定氏

アマゾン行

ス

黒人坊に殺さる

シツコ・イラリオ

リンス郡バルボーザ植民地の藤

永力廠方につて、植民兒童

神運動等を唱道し且つ實現に力

豫て内諸の上塙司氏、栗津金六

氏等經營のアマゾナス州バルボ

チニスに於ける拓殖學校主任と

して、来る廿八日サントス發の

ス

邦人

の實勢を調査せるリン

ス中央日本人會商業部の發表

する處に據れば、

所有土地總面積二萬一千四百四

十九城

家庭數二千五百十八家族

人口一萬三千八百四十九人

内蔵

土地所有者一千三家族

コロノ及貢者一千三百三十九家族

ヨンス市内在住者百十四家族

其他グリヤナ町セツナ町等二十

所有珈琲樹數一千八萬七千九

本年度珈琲收穫想高皮付

四十五萬六千八百四十俵

粗收穫想高十五萬九百十俵

所有自動車數二百四臺

實に右の如く發展の最高度を示

て是れが可能か否かは未定の問

題に屬してゐる云ふことであ

る。

岡田英定氏

アマゾン行

ス

黒人坊に殺さる

シツコ・イラリオ

リンス郡バルボーザ植民地の藤

永力廠方につて、植民兒童

神運動等を唱道し且つ實現に力

豫て内諸の上塙司氏、栗津金六

氏等經營のアマゾナス州バルボ

チニスに於ける拓殖學校主任と

して、来る廿八日サントス發の

ス

邦人

の實勢を調査せるリン

ス中央日本人會商業部の發表

する處に據れば、

所有土地總面積二萬一千四百四

十九城

家庭數二千五百十八家族

人口一萬三千八百四十九人

内蔵

土地所有者一千三家族

コロノ及貢者一千三百三十九家族

ヨンス市内在住者百十四家族

其他グリヤナ町セツナ町等二十

所有珈琲樹數一千八萬七千九

本年度珈琲收穫想高皮付

四十五萬六千八百四十俵

粗收穫想高十五萬九百十俵

所有自動車數二百四臺

實に右の如く發展の最高度を示

て是れが可能か否かは未定の問

題に屬してゐる云ふことであ

る。

岡田英定氏

アマゾン行

ス

黒人坊に殺さる

シツコ・イラリオ

リンス郡バルボーザ植民地の藤

永力廠方につて、植民兒童

神運動等を唱道し且つ實現に力

豫て内諸の上塙司氏、栗津金六

氏等經營のアマゾナス州バルボ

チニスに於ける拓殖學校主任と

して、来る廿八日サントス發の

ス

邦人

の實勢を調査せるリン

ス中央日本人會商業部の發表

する處に據れば、

所有土地總面積二萬一千四百四

十九城

家庭數二千五百十八家族

人口一萬三千八百四十九人

内蔵

土地所有者一千三家族

コロノ及貢者一千三百三十九家族

ヨンス市内在住者百十四家族

其他グリヤナ町セツナ町等二十

所有珈琲樹數一千八萬七千九

本年度珈琲收穫想高皮付

四十五萬六千八百四十俵

粗收穫想高十五萬九百十俵

所有自動車數二百四臺

實に右の如く發展の最高度を示

て是れが可能か否かは未定の問

題に屬してゐる云ふことであ

る。

岡田英定氏

アマゾン行

ス

黒人坊に殺さる

シツコ・イラリオ

リンス郡バルボーザ植民地の藤

永力廠方につて、植民兒童

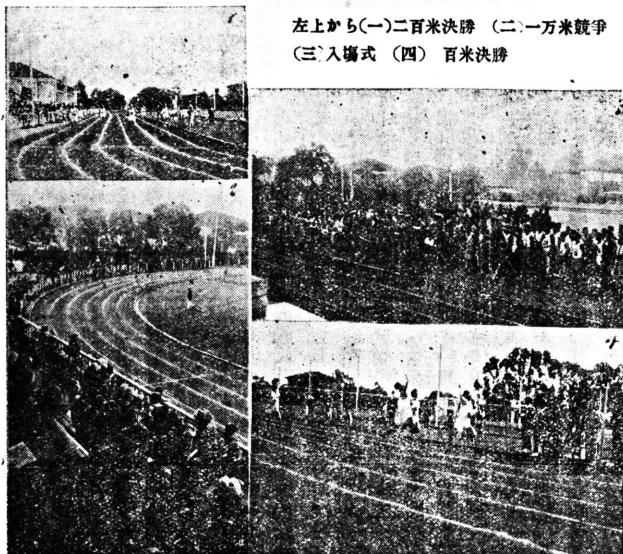
神運動等を唱道し且つ實現に力

豫て内諸の上塙司氏、栗津金六

氏等經營のアマゾナス州バルボ

チニスに於ける拓殖學校主任と

して、来る廿八日サントス發の



左上から(一)二百米決勝 (二)一万米競争  
(三)入場式 (四)百米決勝

## 全伯國陸上競技大會

### コチヤ青年會

遂に全優勝の榮冠を掌握し

#### 汎ノロエステ第二位

#### 惜敗の聖市青年會

聖市青年會主催全伯國陸上競技

大會は豫定の如く去る四月二十日

九日の天長節に聖市バウリスター

運動俱樂部於て舉行

各地よりの出場選手よく聞ひ、二、

相川コチャ白須ノロエステ

曲尾イグアベ

一五〇〇メートル競走

一、二分一七秒五分二

相川コチャ白須ノロエステ

一五〇〇メートル競走

一、四分四五秒五分一

相川コチャ白須ノロエステ

一、四分四五秒五分一

相川コチャ白須ノロエステ

一、一八分四秒五分三

相川コチャ白須ノロエステ

一、一五〇〇メートル競走

一、二分一秒五分二

相川コチャ白須ノロエステ

得點	記録	氏名	所屬	得點	記録	氏名	所屬	得點	記録	氏名	所屬
二九點	一、四分四秒五分三	コチャ	ノロエステ	二九點	一、四分四秒五分三	コチャ	サンバウロ	二九點	一、四分四秒五分三	コチャ	サンバウロ
一三點	一、四分四秒五分三	コチャ	ノロエステ	一三點	一、四分四秒五分三	コチャ	ノロエステ	一三點	一、四分四秒五分三	コチャ	ノロエステ
一一點	一、四分四秒五分三	コチャ	ノロエステ	一一點	一、四分四秒五分三	コチャ	ノロエステ	一一點	一、四分四秒五分三	コチャ	ノロエステ
モロンビー	一、四分四秒五分三	コチャ	ノロエステ	モロンビー	一、四分四秒五分三	コチャ	ノロエステ	モロンビー	一、四分四秒五分三	コチャ	ノロエステ

東山杯	西村(コチャ)百米競走
中島總領事杯	中島總領事杯
海興杯	海興杯
北西汎運動聯盟(フィールド競技)	北西汎運動聯盟(フィールド競技)
東山杯	西村(コチャ)百米競走
川西領事杯	川西領事杯
杉野(サンバウロ)走高跳	杉野(サンバウロ)走高跳
ブラヂル拓植組合杯	ブラヂル拓植組合杯
西村(コチャ)槍投	西村(コチャ)槍投

## 天長節遙拜式

選手役員慰勞會

競技大會終了後聖市日本俱樂部

に於て選手役員慰勞會を開き、

選手役員百數十名來會シヨップ

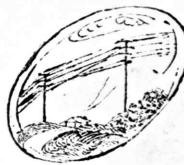
対する感想、及び將來に對する

希望を吐露し十一時頃散會

競技大會終了後聖市日本俱樂部

に於て選手役員慰勞會を開

學校關急告



欄ナバカロン

當ブ・ブルデソテ郡視學の警告

新政府は極力國民教育の充實を圖るの方針から、外國人經營の學校にして、未公認の儘授業を繼續してゐるものには直ちに閉鎖を命ずる事になつてゐるから、日本人にして公認の手続きを踏まず教授を爲し居る學校は此の際閉鎖して、蒙認願手續を爲すを緊急とする、若し右の方針を無視し依然として授業を繼續し居る學校ある場合は、該學校に對し壹コントの罰金を科する事になつてゐる、既に市のみに處せられたるもの六十校に及んでるから、日本

人諸君も斯かる事のなき中自發的に授業を中心とし、公認手續を爲すを要すとの注意があつたから、現在未公認の儘授業を爲し、ある學校は、自らに授業を中心とし、公認の理由で閉鎖しなれたるもの六十校にして右四十校に及んでるから、日本

依然として授業を繼續し居る學校ある場合は、該學校に對し壹コントの罰金を科する事になつてゐる、既に市のみに處せられたもの六十校にして右四十校に及んでるから、日本

依然として授業を繼續し居る學校ある場合は、該學校に對し壹コントの罰金を科する事になつてゐる、既に市のみに處せられたもの六十校にして右四十校に及んでるから、日本

依然として授業を繼續し居る學校ある場合は、該學校に對し壹コントの罰金を科する事になつてゐる、既に市のみに處せられたもの六十校にして右四十校に及んでるから、日本

依然として授業を繼續し居る學校ある場合は、該學校に對し壹コントの罰金を科する事になつてゐる、既に市のみに處せられたもの六十校にして右四十校に及んでるから、日本

依然として授業を繼續し居る學校ある場合は、該學校に對し壹コントの罰金を科する事になつてゐる、既に市のみに處せられたもの六十校にして右四十校に及んでるから、日本

依然として授業を繼續し居る學校ある場合は、該學校に對し壹コントの罰金を科する事になつてゐる、既に市のみに處せられたもの六十校にして右四十校に及んでるから、日本

天長節祝賀會

去月十九日の天長節には、萬歳を祝祈すると共に、在留民の歓びを表形する爲め此處ブルデソテ在留同胞も當日午前日本人會館に集まつて祝賀會を催はしたが、其の順序として

一、最敬禮「閉會」  
一、勅語奉讀  
一、祝辭  
一、天長節の歌

典として陸上運動會を催行し、正午より餘

の祝賀式を舉行し、正午より餘

奥

の祝賀式を舉行し、正午より餘

典として陸上運動會を催行し、正午より餘

の祝賀式を舉行し、正午より餘</



## 國立公園

## 富士山岩地帶に植物一千四百種

自然の大植物園を形成し富士山の高山森林地帯に蓄生して居る各種植物の研究は三四年以前から斯界の權威武田博士等によつて續行され、其の結果を注目されて居る折柄、山梨縣では富士山國立公園設定の前に、山内八

報知の大平洋

## 横断機

## 報知日本

名

命

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

## 期待を裏切つた

# 同仁會定期總會

なしに通過して役員選舉に移  
たが其の顔觸れ左の如くで、  
理事長 江越 信胤  
専務理事 福川 薩然  
第2會計 蜂谷 專一  
監査役 山根 寛一  
同 明穂 梅吉  
當選報告に拍手喝采して散會し  
たるは朝の二時過ぎであつた  
前日の午後に大降雨があつたの  
で、夕立ならよいが若しさうで  
ないと明日の天長節は……と心  
配したのもほんの杞憂で、明けた  
た廿九日は薄雲のかゝつた上、  
天氣で暑からず寒からず恰かま  
日本の櫻の季節を其の儘伯國に在  
留民祝賀會場のクラブ・パウリ  
スタノの運動場に集まり、日本  
人會主催の拜賀式を催ほして後  
運動競技の開始となつたが、觀  
客は運動の切れ目を見ながら、  
ては程遠からぬ總領事官邸に出  
かけて

「て且つ踊つたとはお目出た  
とする  
聯邦労働省が今年度三ヶ月間の事務成績は非常に見るべきものがある、即ち田舎行労働者を切つたが二萬人近くで、バトローニの契約金支拂等の問題は一ヶ月に亘る近づ取扱つてゐる、方官吏を耕地に派してコロノの生活状態を調査し耕地会計検査を爲し野外労働條件の改良には盡力し、新コロノ契約手帳如き既に印刷済みの由である。バトロン對コロノ間の勘定問題は三ヶ月間に九百一コントス百九十五ミル三百三十六レー。その内八百九十九コントス百十五ミル六百二十六レースは確定済みにて之等の費用僅かに十九コントス九百四十九ミル百十三レースなるに反し、昨年同期三ヶ月間のそれは二百十九コントス八百二十七ミル六十二レース、費用は實に九七コントス六百九十五ミル八十六件で、一月に五千七百四二、二月に六千九百九、三月六千六百六十、合せて一萬九百三十一の無賃乗車券を發給して居る、尙ほ田舎に就職した人々の國別人種を擧げると次の如である

内外雜貨食料品  
松屋商店  
Telephone, 7-3263  
Rua do Commercio, 8A  
(Pinheiros) São Paulo

圖に付)七銭〇三〇

人 友 純親代族 同弟同同妹姉兄父母  
木 皆 田 原木 皆 木 皆  
佐 浅 小柳 金原 豊島 順 吉岡  
葉 滾 佐足 沿達 林瀬 岸田 朝 秀 二  
平 一定 陸 蔡 平次 久財 猛九 懇 郎七治 雄志郎 廣一夫市平

岡山縣人  
三次 静 郁 蘭 江 朝 秀  
藤 藤 藤 藤  
節 吉五 郎 郎江子子教野二

次女二十三子儀急病  
白方療養致し候へ其遂に  
其効無之三十四月三十日午後  
十一時三十分永眠翌五月  
一日イビチング埋葬致し候間生前辱  
知諸賢士御通知申上候  
追而葬儀の際は遠路態  
々御會葬を辱し同奉  
感謝先は乍略儀紙上  
を以つて御禮申上候  
昭和六年五月一日

ハリカエ一切  
歌三味線——兩面五十針  
義太夫——兩面白五十針  
日本品參百丁豫備皮が有る  
Faz. Bastos Est. Rancharia

十五歳以上五十歳迄  
勝手廻り正直な人  
ソロカバナ線クアタ琴

女中入用  
三味線川崎鐵五郎  
三ノ宮商店

並二精選白赤味噌

鳥居町

醬油

ノーフ

上卷 治病不泥古

二刀  
黑  
北

# 四線プロミッシ

**小野次郎右衛門之卷(二)**

こんな噂が波紋のやうに擴がつて一刀流の名と共に、伊藤一刀齋の名は、東國の劍客達を壓すばかりであつた。萬喜の城主彈正小阿頼定は、その外武藝好みだつたら、その家臣達の熱もすばらしいものであつた。近頃高名の一刀齋が來るこ聞き、早速使を出して城中に招いた。

勿論一刀齋を試験臺にして、家中の者が待達の武藝の程度を試す意に外ならなかつた。が選び出された數人の中に、神子上典膳があつた。典膳は伊勢の生れであつたが、求めて上總に來り万喜の家臣となつたものであるまだ二十を越えて幾何もなく、日頃學んだ中條流は、家中に匹敵する者とてない腕の冴えであつた。好んで流儀の小太刀を用ひ、その變化の早業は人々の驚嘆する所であつた。

家中の腕利きは、入り代り立派に廻して何處まで戦ひ得るかが問題視された。

典膳は一刀齋の腕の冴えに、總像出来ないにしても一刀齋に向ふに廻して何處まで戦ひ得るかが問題視された。

典膳は一刀齋の腕の冴えに、總彈かれたやうに一刀齋の前に飛び出した。

その頃は五十に手の届く年になつてゐたが、老いて益々その術は精妙の境に達したと云はれてゐる。

典膳はその半分にも満たない年配で立合つて見ると、その技術

は實に半分にも及びがつかなかつた。

例の小太刀を取つて、流儀の一文字星眼に付け、ちつと見詰めの一打ちと狙つたが、これはまださうしたことか、一刀

齋の體は二尺八寸の木劍に隠れるばかりであつた。

一刀齋には定住の家と云ふものなかつたから、新弟子の典膳

がなかつた。師匠に従つて、旅から旅を續けてきた。

「彼奴は數年來信濃一圓を充ててゐた。」

&lt;p